



題 字
初代会長 松野 盛吉

発行人
〒010-0951
秋田市山王四丁目1番2号
秋田地方総合庁舎内
秋田県消防協会
会長 高橋 正尚
電話 018-867-7320
FAX 018-863-5910
<http://www.shoubou-akita.or.jp>
E-mail:ask@shoubou-akita.or.jp

印 刷
〒010-0951
秋田市山王7丁目5-29
株式会社 松原印刷社
電話 018-862-8760
<http://www.matsubarainsatsu.co.jp>

年頭の ごあいさつ

一般財団法人秋田県消防協会
会長 高橋 正尚



令和7年の新春を迎え、県民の皆様並びに消防職・団員はじめ消防関係者の皆様に謹んで御挨拶を申し上げます。

皆様には、地域住民の生命・財産をあらゆる災害から守るため、昼夜を問わず活動され、様々な努力をされていることに心から感謝と敬意を表します。

さて昨年は、1月1日に石川県能登半島を震源とする地震が発生し、家屋の倒壊や火災により、たいへん多くの方が犠牲になりました。能登半島では9月にも線状降水帯が発生し、輪島市で記録的な大雨で震災復旧に大きな影響を受けました。

本県においても、7月の記録的な大雨で複数の河川が氾濫し、由利本荘市など各地で住家や農業施設に大

2024年度全国統一防火標語 守りたい 未来があるから 火の用心

きな被害がありました。

こうしたなか、パリ五輪におけるバドミントン女子ダブルスの志田千陽選手(八郎潟町出身)や陸上女子マラソンの鈴木優花選手(大仙市出身)の活躍は、県民に清々しい感動をもたらしました。

協会においては、7月6日、大仙市で「第75回秋田県消防大会」を開催しました。コロナ禍や大雨により中止が続いていたため、5年ぶりの開催となりました。当日は、大仙仙北美郷支部が企画した屋外イベントに約5000人が来場し、多くの親子連れに楽しみながら消防への理解を深めてもらいました。

9月16日、宇都宮市で「第29回全国女性消防団員活性化とちぎ大会」が開催され、本県から12名が参加しました。大仙市消防団が活動事例PR展示コーナーで、不要になった半纏やホースを利用して製作したりユースグッズを展示し、多くの参加者の関心を集めました。

このほか、10月12日、宮城県で「第30回全国消防操法大会」が開催され、本県から能代市消防団能代第6分団

が出場しました。同分団は優れたチームワークで健闘し、初出場ながら優良賞を獲得しました。

近年、我が国では、これまでの予測や経験を超える災害がいつでもどこでも発生するようになっていきます。本県では、3年連続で記録的大雨に見舞われております。

こうした困難な状況に対応するため、消防職・団員の装備の充実や教育訓練、さらに地域住民を巻き込んだ防災減災の備えが益々重要になってきます。皆さまにおかれましては、地域における消防防災の要として、これまで培われてきた知識と豊富な経験を活かし、お力添えを賜りますようお願いいたします。

本年が災害のない平穏な年になりますこと、さらに皆様にとって充実した素晴らしい年でありますことを祈念し、新年の挨拶といたします。

本年もよろしくおねがいします!



令和7年の 新春を迎えて



秋田県知事
佐竹 敬久



令和7年の輝かしい新春を迎え、県内消防関係者の皆様に謹んで新年のお慶

びを申し上げます。皆様には、県民の生命・財産を守るため、消防防災活動に精励していただいていることに対し、深く敬意を表しますとともに、心から感謝を申し上げます。

昨年を振り返りますと、能登半島では、元日に大きな地震が発生し、9月には大雨に襲われ、同じ年に二度も甚大な被害に見舞われました。本県においても、昨年は3年続けたの大雨に見舞われ、県内各地で土砂災害や河川の増水・氾濫、多くの建物や農地への浸水などが立て続けに発生しました。自然災害は、いつ、どこで発生するか分からないという前提のもと、日頃からの備えと、発生時に的確に対応できる体制の整備が重要であると、あらためて痛感させられたところであり、また、県内での火災の発生状況は、

前年比で出火件数及び死者数が増加しており、火災予防の呼びかけや、火災発生時の即応体制の確保が更に求められていると考えております。

このように、地域防災力の充実・強化が一層重要となっており、消防関係者の皆様は、地域防災体制の中核として重要な存在であります。

特に消防団は、消防隊員とともに災害防ぎよ活動や住民の避難支援、被災者の救出・救助などのほか、消火や火災予防など多様な活動を行っており、県民の生命と財産を守っていくために、地域に精通する消防団が果たす役割はますます大きくなっていくものと考えております。

一方で、少子高齢化の進行による団員数の減少や、被雇用者団員の増加、団員の平均年齢の上昇など、多くの課題に直面していることから、県では「消防団加入促進モデル事業」を実施し、市町村が実施する消防団体験活動イベント等への助成や、若手・女性団員によるPR活動などにより、団員減少への歯止めと、消防団活動の活性化に取り組んでいるところであります。皆様からもご協力をお願い申し上げます。

結びに、本年が火災や災害のない平穏な一年であること、皆様方の御健勝、御活躍を祈念し、年頭のあいさつといたします。

歴史・世界など中広く承知 しながら、地域の安全を 令和7年新春こあいさつ

公益財団法人日本消防協会
会長 秋本 敏文



新年おめでと
うございます。

最近の災害の様子を見ると、今年がどのような年になるか気がかりですが、秋田県内各地、無事平穏でありますことをお祈りいたします。

秋田県では、これまで火災のほか、台風や大雨による風水害、河川の氾濫、浸水など、さまざまな災害を体験され、その都度、消防関係の皆様は、県民の生命財産を守るため全力を尽くしてこられました。深く感謝申し上げます、心から敬意を表します。

近年、地球環境の変化を背景に大規模な災害が各地で発生するなど、災害の様相が大きく変わり、また、地域社会の様子も少子化、人口減など変わってきました。そのようななか、消防が使命を果たしていくためには、消防団員の確保など総合的な人的対応体制の充実、新たな技術、素材を含めた装備の改善、それぞれの地域の実情に応じた多様な防災基盤の整備などが必要です。また、地域の皆さん総参加による地域防災体制の確

保、日頃の訓練や団結も大事です。そして、その地域の自然的社会的諸状況に応じた災害対応について平時から検討しておくなど、いろいろなことが必要でしょう。このように考えると、消防関係者の皆様のご苦労は益々大きくなってまいります。

日本消防協会では、多くの皆様のご協力を頂いて建設を進めてまいりました新日本消防会館が、昨年完成いたしました。殉職された方々の慰霊碑、千席のホールのほか、日本消防防災情報センターを設けました。この情報センターには、これまでの災害体験、消防の活動等の映像を展示して、これからの消防防災体制のあり方を考える素材を提供してまいります。開館時の大きな画面には100年前の関東大震災、30年前の阪神淡路大震災の状況を展示しています。将来は東日本大震災の状況を展示するなど、いろいろ考えていかなければなりません。

微力ではありますが、そうした努力を重ねて、日本消防の一層の発展に貢献できるようにすることが、新会館建設にご協力頂いた皆様へのご恩返しと思っております。

県下の無事平穏、消防関係の皆様のご活躍を心からお祈りして新年のあいさつといたします。

新年のごあいさつ

秋田県市長会会長
秋田市長
穂積 志



令和7年の新春を迎え、皆様
に謹んで新年の
ご挨拶を申し上げ
ます。

消防職員及び消防団員の皆様におかれましては、火災をはじめさまざまな災害から生命や財産を守るため、それぞれの地域において昼夜の別なく献身的にご尽力いただいております。ことに、心から敬意を表します。

また、秋田県消防協会におかれましては、日頃から、防火防災に関する知識・技能の普及啓発や、消防団員の研修、消防操法大会の開催など、消防防災力の向上に積極的に取り組まれており、地域の安全・安心の確保に多大な貢献をされておられますことに、深く感謝申し上げます。

さて、近年、地球温暖化の影響により大規模な自然災害が全国的に発生しており、本県では、令和4年から3年連続で大雨による甚大な被害を受けました。災害に際し、住民の避難誘

導や浸水した建物からの救出活動など、消防関係者のご活躍は私たちの記憶に深く刻まれております。

令和6年能登半島地震などの教訓も踏まえ、大規模災害発生時に住民の生命と財産を守る地域防災力の重要性が増す中、消防及び消防団は欠かせない地域防災の要となります。このため、秋田県市長会では、消防団員の確保や処遇改善による組織の充実、高額の消防設備の更新・配備に対する財政支援など、消防力・地域防災力の充実強化に係る支援の充実を国に要望しているところであります。

皆様には、引き続き、地域防災力の向上と地域の安全・安心にお力添えを賜りますようお願いするとともに、秋田県市長会といたしましては、今後とも県内各市が連携し、災害に強いまちづくりの推進に取り組んでまいります。

結びに、巳年は再生と復活の年とも言われることから、全国各地の被災地の一日も早い復旧と被災者の生活再建が果たされることを切に願いつつ、皆様の益々のご健康とご活躍、そして災害のない平穏な一年となりますことを祈念申し上げます。新年のあいさつといたします。

令和7年の新春を迎えて

秋田県消防長会会長
秋田市消防長
渡辺 邦博



令和7年の輝かしい新春を迎え、県内の消防関係者の皆さまに謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

皆様におかれましては、近年の多岐にわたる災害から、地域住民の生命・身体・財産を守るため、昼夜を問わずご活躍されておりますことに深く敬意と感謝を申し上げます。

また、昨年の消防長会各種事業におきましては、開催地の皆様をはじめ多くの方々から特段のご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、昨年の災害に目を向けますと、元日早々には石川県能登半島において最大震度7を観測する地震が発生し、多くの尊い人命と貴重な財産が失われ、今も多くの方々が避難生活を余儀なくされております。

また、本県においては、7月24日からの短時間記録的大雨により県南地区を中心に広い範囲において浸水

被害が発生したところであり、災害対応や復旧支援に当たられた消防職団員の皆様に感謝申しあげるとともに、被災された皆様には心よりお見舞い申し上げます。

このように、近年の災害は気候変動の影響で、様相を変えながら激甚化、頻発化の一途を辿っており、地域住民の防災に対する関心と救助活動に従事する我々消防への期待は益々高まってきております。

こうした中、昨年11月には、秋田市及びその周辺地域において、大規模地震を想定した緊急消防援助隊北海道東北ブロック合同訓練を実施し、受援体制の実効性を確認したところであり、

今後大規模地震をはじめ大雨、洪水など気象災害の発生が危惧されておられ、秋田県消防長会として、これらの災害に的確に対応するため、各関係機関との連携を図りながら、広域的な災害対応能力の充実強化に取り組んでまいりますので、ご支援、ご協力をお願い致します。

結びに、皆様のご多幸とご健勝、そして本年が災害のない平穏で幸多き一年となりますよう祈念申し上げます。年頭のごあいさつといたします。

令和7年 消防出初式

令和7年の消防出初式は、1月4日から13日にかけて、県内25地区で消防団員ら約7200名が参加して行われました。

秋田県知事あいさつ(要約)

令和7年の新春を迎え、消防出初式が厳かに開催されますことをお慶び申し上げます。

昨年の3年連続での大雨で人的被害が少なかったのは、日頃の備えや迅速な避難誘導など、消防職員や消防団員の皆様の確な防災活動の賜物であり、深く感謝いたします。

県では、市町村や消防本部と連携し、消防防災体制や救急救命体制の充実とともに消防団や自主防災組織の体制強化に取り組むほか、消防団員の確保にも力を入れてまいりますので、皆様におかれましても、地域防災の担い手として一層精励され、安全安心の確保にお力添えを賜りますようお願いいたします。

本年が火災や災害のない平穏な一年であるとともに、皆様方のご健勝ご活躍を祈念し、お祝いの言葉いたします。



小坂町消防団



鹿角市消防団



北秋田市消防団



大館市消防団



能代市消防団



上小阿仁村消防団



八峰町消防団



三種町消防団

男鹿市消防団



藤里町消防団



五城目町消防団



湯上市消防団



井川町消防団



八郎潟町消防団



秋田市消防団



大潟村消防団



にかほ市消防団



由利本荘市消防団



仙北市消防団



大仙市消防団



横手市消防団



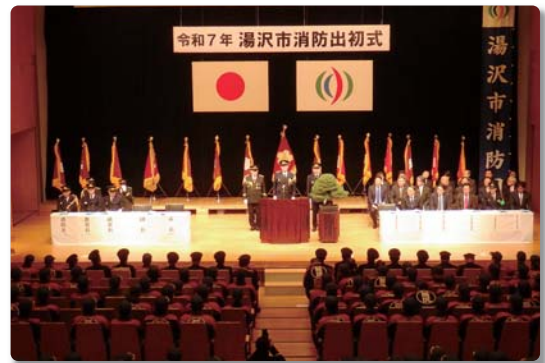
美郷町消防団



羽後町消防団



湯沢市消防団



東成瀬村消防団



スキルアップ研修

を開催しました

この研修は、今年度、県の委託事業として企画したもので、消防団加入促進モデル事業の推進チームのメンバーなど50名が出席して、12月12日(木)に秋田拠点センターアルヴェ(秋田市)で開催されました。

研修では、NPO法人ちば救命・AED普及研究会理事桐田寿子氏が「命を守るために「ASUKAモデルへの想い」と題して講演を行いました。桐田氏

は、平成23年に小学6年生の長女明日香さんが駅伝大会の課外練習中に倒れ、適切な心肺蘇生が行われず亡くなるという辛い体験をしたことを契機に、関係者の協力のもと、体育活動時における事故対応を体系化した「ASUKAモデル」を考案し、学校現場における救命教育の普及に尽力されています。

講演後は、秋田市消防本部の高橋伸一氏の司会で、桐田氏と出席者との活発な意見交換が行われ、学ぶことが多く研修だったという声が多く寄せられました。



意見交換の様子

令和 6 年度 消防団員指導員研修受講者名簿

消 防 団 名	階 級	氏 名
鹿角市消防団	班 長	吉 村 鉄 也
小坂町消防団	部 長	立 石 大 介
大館市消防団	副分団長	羽 賀 昭 人
北秋田市消防団	部 長	工 藤 俊 明
能代市消防団	班 長	高 橋 博 樹
三種町消防団	部 長	佐 藤 勝 真
八峰町消防団	副分団長	堀 内 和 人
男鹿市消防団	副分団長	渡 部 靖
男鹿市消防団	班 長	近 藤 勝 郎
男鹿市消防団	班 長	山 本 和 也
五城目町消防団	班 長	佐々木 一 朗
井川町消防団	分 団 長	渡 部 英 敏
秋田市消防団	部 長	熊 井 公 成
由利本荘市消防団	班 長	佐々木 良 友
由利本荘市消防団	班 長	斎 藤 勲
大仙市消防団	分 団 長	高 橋 光 雄
仙北市消防団	分 団 長	伊 藤 幸 二
美郷町消防団	副分団長	傳 野 恒
横手市消防団	分 団 長	佐 藤 裕
横手市消防団	副分団長	佐 藤 義 雄
横手市消防団	副分団長	佐 藤 伸 明
横手市消防団	副分団長	杉 山 修 康
横手市消防団	副分団長	佐 藤 勉
横手市消防団	部 長	高 山 幸 夫
横手市消防団	副分団長	照 井 正 行
湯沢市消防団	分 団 長	宮 原 誠
羽後町消防団	分 団 長	土 田 健 一

令和 6 年度消防団員指導員研修は、12月14日(土)、15日(日)の2日間、秋田県消防学校で開催され、18消防団から27名が参加しました。研修では、現場指揮、安全管理、住民指導、事例研究などの座学のほか、応急手当、救助活動、消火活動などの実技が行われました。

消防団員指導員研修
秋田県消防学校



モリタ消防ポンプ シバウラポンプ
桜ホース・ソフト吸管 消防被服一式
各種消火器 消防機器一式

株式会社 能代消防センター
株式会社 協 立

〒016-0814 能代市能代町字中川原33番地57
TEL (0185) (52) 6494
(52) 6361

地域の防災、災害対策に貢献！

消 防
ポンプ自動車
小型ポンプ
ホース

設 備
火災報知器
スプリンクラー
消火器

猿田興業株式会社
防 災 事 業 部

〒010-0962 秋田市八橋大畑一丁目1番32号
TEL 018(863)1551 FAX 018(853)6311

支部情報アラカルト

ポンプ運用講習を開催しました

11月3日(日)、能代消防署において、能代市消防団ポンプ運用講習会を開催し、約200名の消防団員が参加しました。

この講習会は、令和3年7月に発生した火災において、低地にある水利から高台にある現場に長距離中継送水する際に、小型ポンプの操作や分団間の連携などで課題が浮き彫りになったことから、消防団員の操法技術向上を目的として、春と秋の火災予防運動期間にあわせて実施しているものです。



当日は能代消防署員が講師を務め、ポンプ車で消火栓から揚水した後、小型ポンプ2台を中継して約200メートル先の火点に向けて放水する訓練を行いました。

適切な消防ポンプの取り扱いと分団間のスムーズな連携が行える伝達体制について、再確認できました。今後も日々の消防活動において顕在化した課題に対し、目を背けることなく誠実かつ真摯に向き合うことで、消防団員一人一人の技術向上と消防団全体の消防能力向上を目指してまいります。



火災の発生状況 (速報値)

(秋田県総合防災課消防保安室調べ)

	令和7年		令和6年			同期比較	
	1月	累計	1月	累計	年計	1月	累計
建 物	14	14	15	15	175	- 1	- 1
林 野	0	0	0	0	35	0	0
車 輛	5	5	2	2	31	3	3
その他	0	0	2	2	107	- 2	- 2
合 計	19	19	19	19	348	0	0
死者数	0	0	1	1	29	- 1	- 1
負傷者数	10	10	1	1	73	9	9

〔情報提供〕能代市山本郡支部



トーハツ消防ポンプ
モリタ自動車ポンプ
消防被服全般
秋 田 県 代 理 店

総合防災設備センター

株式会社 高 義 商 会

(営業種目) トーハツ小型動力ポンプ
モリタ自動車ポンプ
ジェットホース
消防被服全般
火災報知器各種
消火器各種



〒012-0105 本社 湯沢市川連町字万九郎屋布32
TEL(0183)(42)2125
〒012-0844 湯沢市田町 TEL(0183)(73)2588

株式会社 夕 力 吉

秋田県横手市寿町1番28号
TEL (0182)(32)3880
FAX (0182)(32)0839

(営業種目)

日本機械自動車ポンプ | 消防設備保守点検
トーハツポンプ | キンパイホース
各種消防機械器具 | 各種消火器

ホームページ <http://it-yokote.sakura.ne.jp/>
E-mail ykttkg@jasmine.ocn.ne.jp